

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第12回大潟区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・報告事項（公開）

（1）地域独自の予算の事業一覧について

・協議事項（公開）

（1）地域活性化の方向性の課題の整理について

（2）4年間の活動の総括について

・その他（公開）

3 開催日時

令和6年3月21日（木）午後6時30分から午後7時40分まで

4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：五十嵐郁代、五十嵐公子、金澤信夫、君波豊、佐藤忠治（会長）、新保輝松、
関清、中野幹根、濁川清夏、俵木一松、俵木晴之（副会長）

（13名中11名出席）

・事務局：大潟区総合事務所 熊木所長、小池次長（総務・地域振興グループ長兼務）
布施教育文化グループ長、風間班長、水澤主任

8 発言の内容（要旨）

【小池次長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の

出席を確認、会議の成立を報告。

【佐藤忠治会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：濁川清夏委員に依頼

【佐藤忠治会長】

報告事項に入る。報告事項（１）地域独自の予算の事業一覧について、事務局から報告を行う。

【風間班長】

資料No.1により説明。

【佐藤忠治会長】

昨年に比べて多いのか。

【風間班長】

令和5年度は大潟区で2件、約500万円の事業であった。

【佐藤忠治会長】

意見、質問はあるか。

（一同無し）

【佐藤忠治会長】

次に協議事項（１）地域活性化の方向性の課題の整理についての協議を行う。事務局から説明を願う。

【風間班長】

資料No.2により説明。

【佐藤忠治会長】

意見、質問はあるか。

【君波豊委員】

No.2については九戸浜町内会に関係する内容であると思う。特にNo.7については、最近になって九戸浜町内会の皆さんが自分たちの町内の宝発掘に目覚めたようで、いろいろと活動しており、頑張っている。九戸浜町内会としてどうするかの方針を定めて進めてもらおうとよいと思う。

【関清委員】

どんどの池については、小学生も総合学習の中で学んでいる。小学校での取り上げ方と先生方の感度がどのようなものか関心がある。

【俵木晴之副会長】

事前に資料をいただき、意見があれば発言してくれとのことであった。No.1からNo.4の意見については、地域協議会だけでは話がまとまらないと思う。これから細かい部分を進めていくときに、この意見を出してくださった方に検討会等に入っていて一緒に進めて行ければいいと思う。No.5については、まちづくり大潟でも写真コンテストを実施している。これまでも夕日の写真コンテストはあったかと思うが、いろいろな形の写真コンテストを実施してもいいと感じた。No.6、No.7はありがたい意見だと思う。意見にあるように「絵に書いた餅」とならないように準備、検討しながら進めていきたいと感じた。

【佐藤忠治会長】

今の意見を加えて、次期委員への引継事項としてよいか。

【君波豊委員】

No.3の意見について、柿崎と共同でやる必要はないと思う。佐渡の金銀山が世界遺産に登録されることが確定に近くなってきている。大潟区が率先して取り組んでいけばいいと思う。犀潟の老人会では、公民館等でそういったことを協議しながらやっ払いこうと話している。旗でも何でも立てて賑やかにしていきたいと話を進めている最中である。

【関清委員】

旗を立てるとは、どのようなイメージか。

【君波豊委員】

のぼり旗である。

【佐藤忠治会長】

中郷区では、実際にのぼり旗を立てている。地域住民が二本木駅で喫茶店を運営している。その賑わいを作るために北國街道沿いにのぼり旗を立てている。

【関清委員】

何本くらい立てているのか。

【佐藤忠治会長】

それは分からない。私は二本木駅の前「ここは北國街道」というのぼり旗を見た。他には、新井の駅前から街道沿いの電柱に北國街道という表示がある。黒井には「黒井宿」という表示がある。柿崎にはなかったと思う。それは濁川委員が詳しい。

【濁川清夏委員】

春日新田にも「春日新田宿」という看板がある。二本木と松崎の間には大きい看板があり、のぼり旗も頻繁に立てている。

【佐藤忠治会長】

高田にはなかったか。

【濁川清夏委員】

高田にはない。

【君波豊委員】

「島根のすさみ」という本が直江津図書館にある。佐渡の川路聖謨という奉行が、勤めを終えて帰る時にこの道を通っていると書いてある。犀潟、黒井、春日新田、高田を通ったと書いてあり、佐渡奉行がここを通ったことは間違いない。金銀も当初は三国街道を通して運んだが、むしろこちらの方がメインになった感じである。そんな本も参考にしながら、大々的に売りにしていってらどうかと思う。

【佐藤忠治会長】

「天保 6 年堀割御普請中日記帳」にも佐渡奉行のことが書いてある。橋が完成して渡り初めをしないうちに佐渡奉行を通したことが大きな問題となったようである。

【君波豊委員】

年代的にも一致するため、川路聖謨だと思われる。

【佐藤忠治会長】

潟町町内会や潟町宿に関連のある団体に呼びかけて、地域協議会と連携して取り組んでもらいたいと思う。文章については、正副会長と事務局に一任いただき、次期地域協議会に引き継ぎたいと思う。

次に協議事項（2）4 年間の活動の総括についての協議を行う。事前に皆さんにもお伝えしたが、次期の委員に期待することや、伝えたいことを簡潔に発言いただきたい。

【五十嵐郁代委員】

4年間を振り返ると、自分が満足いく活動ができていないと思うが、最後に人魚館サポータズクラブを作ったことは大きな活動であったと思う。地域協議会は主体的に活動することはないが、自分たちが自主的審議事項として協議したことが形になり、そこに関わっていくということは有意義であった。

【五十嵐公子委員】

地域協議会だよりも書いたが、委員5人で立ち上げた人魚館サポータズクラブに新しい地域協議会委員にも携わっていただきたい。また、立ち上げた自分も尽力していきたい。先ほど協議していた地域活性化の方向性の課題の整理には専門的な知識がないと進められないと思う。次期地域協議会委員と知識を持った人たちとでいいものを作り上げていただきたいと思う。

【金澤信夫委員】

よく分からずに地域協議会委員となり4年間を過ごしたが、その中でも地域活性化というのは非常に難しい問題であると思った。地域協議会で話をする中で、いろいろなアイデアも出るし、問題も出る。しかし、それを解決するための力が地域協議会にはないと痛感した。いい意見があるが、具現化、実現化するには相当な苦労が必要だと思う。それをするための手段をこの4年間では見い出せなかった。今後は、地域協議会だけでなく、実戦部隊、市の協力が必要と思う。そこを踏まえながら実現できる地域協議会であってほしいと思う。

【君波豊委員】

この4年間はコロナ禍でやりたいことがやれず、やり残した感が多少ある。今後、地域独自の予算を使って、いかに大潟区を活性化していくかが地域協議会にとって大きな命題になると思う。公の施設である鶉の浜人魚館もまだ油断はできないので、先人が作り上げた施設を守り繋いでいくことがますます必要であると思う。いずれにしても地域活性化の方向性に挙げた項目を実践して、賑わいのある大潟区としていくことが地域協議会の命題である。

【新保輝松委員】

地域協議会だよりも書いたが、自分自身が集中できなかったというか、地域協議会そのものの在り方を見いだせなかったことが残念であった。次期委員に期待ということ

になるのだが、特段お願いしたいことはない。

【関清委員】

最初は何が何だか分からなかった。地域活動支援事業にかなり時間を取られた。こちらが何も分かっていなくて恥ずかしい思いであった。事業の提案者がなぜそれをやりたいのかという思いを共有するような交流ができなかった。よし悪し、成果があるかないかという、ケチの付けあいのようなことを私もやった。私自身の愚かさを非常に感じた。地域協議会は市長への意見具申ということであるが、意味合いがよく分からない中で終わった。任期を振り返って、市の第7次総合計画を抜きにしてきていた。市全体の思惑というか方向付けがある。なぜかという、いろいろなことが否定された。また、月1回の地域協議会開催では少なく、皆さんと腹を割った関係を作ることができなかったと感じた。

【中野幹根委員】

振り返ると、皆さん本当によく勉強をされていると感じた。話の途中で私は理解できないことが多々あり、勉強不足をつくづく実感した。また、会議が長いということが一番困ったことであった。最近、会議次第に議題の終了目安が記載されているが、以前は無制限に何時まででもやりましょうといった感じであった。新たに委員をやってみようという方が引いてしまうのではないか。今後も時間の目安を記載していただき、それを守って進めていただきたい。1回の会議でまとまらないようであれば2回に分けて協議することも一つの方法である。

【濁川清夏委員】

4年間いろいろやってきたが、ここへきて地域活性化の方向性の中で、地域の魅力の向上として北國街道を取り上げてもらった。次期委員に引き継いで、形になるようにしていただきたいと思う。

【俵木一松委員】

地域協議会に参加して、途中から自分の中では「どうしたらいいのか」という迷いがあり前に進めなかった気がする。次期委員には核になるものを中心にまちを活性化するにはどうすればいいかを取り上げていっていただきたいと思う。

【俵木晴之副会長】

訳も分からないまま地域協議会に入ってしまったが、反省することばかりであった。

自分でも勉強不足であったと感じている。それでも市の担当者が報告等に来られるときには、事前配布された資料の中で分からない文言等を事前に調べるなどしてきたつもりであったが、まだまだ自己研鑽が必要であったと感じている。次期委員も、協議をしていく中で市に提案等をするようになると思う。提案の趣旨を自分でも勉強していただき、説明できるような準備をしていただきたいと思います。協議の中では様々な意見が出てくるが、他の意見を否定することなく、協調と融和を考慮しながら慎重で前向きな姿勢で取り組んでいただきたいと思います。

【佐藤忠治会長】

この4年間の前半は、君波委員が会長で私が副会長であった。後半に会長を引き受けた。私は、第5期の地域協議会が始まる令和2年4月に病氣療養中であった。今は定期的な検査を受けている状態である。昨年末に75歳になった。これまで5期の中で4期の間、地域協議会委員として活動してきた。途中の1期は介護のため委員にはならなかったが、毎回傍聴に来ていた。他の区を傍聴してみると、柿崎区、吉川区、浦川原区では移動地域協議会を開催している。集落が点在しているため地域協議会を身近に感じてもらおうと、地域の公民館等で地域協議会を開催し、その後に意見交換会を行っている。地域住民の声を吸い上げるため創意工夫をしていて参考になった。後半の2年間、皆さんの多様な意見をまとめ、意見書をもとに実際に人魚館サポーターズクラブが設立された。こういったことは初めてである。第1期のときに、大湊区総合事務所が火力発電所の地域振興費で犀潟駅の開発をしようとした。当時の地域協議会委員は、事前相談もなく住民や地域協議会の意見を聞いていないために認められないと市長に意見書を提出した。住民の意見を聞かずにそういった案を作ることは問題であり、市長が総合事務所を指導するようという意見書であった。市長はそれを認めて、地域協議会で1年かけて協議した。地域活性化に向けて取り組んだのは、それ以来である。次期委員には住民の多様な意見をすくい上げて、それを基にどうあるべきかを市長に意見書を提出して、具体的に実現するための協議をしていただきたいと思います。総合事務所の職員には感謝している。また、委員の皆さんには順番に地域協議会だよりの編集委員もしていただいた。率直な気持ちを書いていただき住民にも伝わったと思う。

以上で協議事項（2）4年間の活動の総括についてを終了する。

その他に入る。我々の任期は4月28日までであるが、これまでも任期最後の4月の

地域協議会は開催してこなかった。そこで、4月の地域協議会について開催しないことを提案したい。

(一同了承)

では4月の地域協議会は開催しないこととする。

事務局から連絡等はあるか。

【風間班長】

地域協議会委員の公募状況を報告する。今日が締切日であったが、大潟区は4人の応募があった。全体を見ると定数を越えた区はなく、選任投票はない。定数と同数であった5区についての追加選任はない。今後、定員に達していない区は事務局を中心にお声掛けをしていく。皆さんからも適任者がいれば声を掛けていただきたい。1週間から2週間で候補者にあたっていき4月22日下旬に決定となる。

【佐藤忠治会長】

職員の異動について報告願う。

【小池次長】

地域協議会に参加している職員の異動について報告する。熊木所長が役職定年となり、4月から吉川区総合事務所へ異動となる。布施グループ長も同じく役職定年となり柿崎区総合事務所へ異動する。本日は欠席している平野グループ長は、市民生活・福祉グループ長から教育・文化グループ長となる。私は、職名が次長から所長となる。転出する職員から皆さんに挨拶させていただく。

【熊木所長】

皆さんの任期とほぼ同じ期間を所長として勤めさせていただいた。皆様方におかれましては自主的審議等に取り組んでいただき、人魚館サポーターズクラブが設立されるなどの実績を残していただいた。本日協議いただいたものも、佐渡金銀山の世界遺産登録に合わせて新たな取組が始まってくれればと思っている。金の道のイベントのルートマップの中で柏崎の次が大潟と載っている。大潟も仲間に入れてもらっているということもあるので、大潟区のPRに繋げていただきたい。4月からは吉川区総合事務所へ異動となる。担当業務が地域振興となるので、頸北地域の合同研修会ではご一緒すると思う。今後もよろしく願います。

【布施グループ長】

これまでずっと木田の庁舎等に行っていたため、地域の皆さんの生の声を聞くことがなかった。総合事務所には最後の2年間にやっと勤めることができた。地域の皆さんの生の声を聞くことができて本当に良かった。4月からは地元である柿崎区総合事務所へ異動する。今度は柿崎区の地域振興のために仕事をしていきたい。地域協議会委員として残る方もそうでない方も、それぞれの道でのご活躍をお祈りしている。

【佐藤忠治会長】

委員から連絡等はあるか。

【君波豊委員】

今日、海岸視察をさせていただいた。すごい量の能登地震の漂着物が犀潟から渋柿浜まであったが、先週、県がすべて回収してくれた。今日、県職員にお礼を言いそびれてしまったのでよろしくお伝えいただきたい。また、今日の視察で昭和40年当初の頃の犀潟海岸と全く同じような状況になっていると感じた。調べてみると、京都大学防災研究所がここへ来たのは昭和44年であり、浸食が始まったときに来ていろいろ研究された。栈橋ができたのは昭和61年であり、京都大学防災研究所が浸食対策をしてくれた。京都大学防災研究所の報告会などで得られた知識が私たちの中で生きている。機会があったら京都大学防災研究所の担当者がいるうちに来ていただいて、おさらいをする会をお願いしたいと思った。

【佐藤忠治会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL：025-534-2111（内線 201、216）

E-mail：ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。